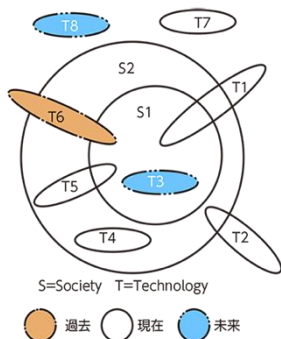


農業生産技術と国際協力の授業レポート

「農業農村開発の技術を考える」により重要点について

・はじめにー農業農村開発の技術とは何か

- 農業と農村
- 技術と工学
- 文明と文化
- 導入と普及のプロセス：



1. 開発の対象とする農業農村（現場）を決める。（S1, S2）
2. その現場のニーズ（needs）を把握する。
3. 現場のニーズに相応しい既存の技術（seeds）を見つける（T7）
4. 既存技術を現場に導入する。（T1, T2, T4, T5）
5. 既存技術がない場合には新たな技術を開発する。（T3）
6. 技術を現場の人間に普及してもらう。
7. 技術が定着したことで消滅する技術もある。（T6）
8. 将来使えるかも知れない新技術も常に生まれている。（T8）

・農家の二男からみた、日本の農業農村における技術の変遷

- 農家はただの農作物つくだけではなく、具体的にすると開墾・水の確保・土の管理・栽培・施肥・防除・気象・収穫・販売・村内の共同作業も行う

・農業工学の技術との出会い

- 農業土木学国民のためにある

・海外における農業農村開発

- 海外調査ではロジ、現地のカウンターパートとの人間関係
- 世界中の農家のマインドは同じ
- 発展途上国における農業農村開発は日本における農業の歴史のよう

・農業農村社会における技術の普及速度

- 技術の普及にはある程度の時間が必要
- 農業農村の持続可能性→技術を浸透普及すること
- 良い技術は、自然淘汰されて生き残る

・業農村開発の先端技術利用と通信インフラ整備

- 世界の農業農村に、情報インフラとして高速通信網が確保を

・おわりにー農業農村開発の技術者教育

- 「農業農村社会の本音」と「適用可能な技術」
- 技術者教育により海外の農業農村開発の現場で活躍す